

評価者	教育部	佐藤 尚之
-----	-----	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	生涯学習	施策の方針	多様な学習機会の提供と学習成果の活用
目標とすべきま ちの姿	大学や高等学校、地方公共団体、NPO法人など民間事業者を含む生涯学習関係団体との連携により、多様で効果的な学習プログラムが市民に提供され、すべての市民が、生涯のいつでも、等しく、自由に学習機会を選択して学ぶことができています。 また、その成果が適正に評価され、さまざまな形で生かすことのできる生涯学習社会が実現しています。 子どもから高齢者まで幅広い年代の方々が地域での学習に取り組み、そのなかで多様なコミュニティが形成され、地域が主体となって生涯学習を推進しています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	35.1%	平成27年度	24.9%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

仕事 の 効果	お金の使い方			お金の使い方			<妥当性の分析> 仕事の効果、お金の使い方ともに、「ちょうどよい」が37%と高いポイントであり、当施策は妥当であると分析できる。また、次に多いのはお金の使い方が「足りない」、効果「不十分」の8%であり、もっと力を入れるべきとの市民意識が高いと考えられる。 当施策の認知度は昨年度と比較し上がっているものの、重要性が低いことがポイントとなっている。重要性についての周知等に課題が残っている。
	必要以上の効果	2.2%	1.0%	0.2%	必要以上の効果	1.4%	
ちょうどよい	1.6%	38.2%	0.5%	ちょうどよい	2.4%	37.1%	1.3%
効果不十分	4.8%	2.4%	7.6%	効果不十分	4.3%	4.4%	8.3%

平成26年度

平成27年度

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	13.1%	38.9%	6.9%	41.0%	100.0%
平成27年度	14.9%	37.9%	7.9%	39.3%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

本格実施となった今泉小学校での放課後子ども教室を充実させ、子どもたちの居場所づくりの充実を図る。
 生涯学習施設の適切な管理を行い、利用しやすい学習環境を提供するとともに、ニーズに合わせた講座の企画・運営を行う。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
教育-09	社会教育運営事業	4,403	9,951	8,968	14,517	0.6	0.6	b	B
教育-10	放課後子ども教室運営事業	948	1,390	5,513	5,956	0.6	0.6	b	A
教育-11	生涯学習センター推進事業	15,179	15,019	25,830	27,196	1.4	1.6	b	B

(3) 主な実施内容

<p>【主な実施内容】 社会教育委員会議を開催するとともに、市内在住・在学の小中学生を対象にした写生大会、コンサートを開催した。(教育-09) 放課後子ども教室運営委員会を開催するとともに、稲小らんらんスクール及び今小おもしろクラブを実施した。(教育-10) 市民団体である鎌倉市生涯学習推進委員会に委託して各種講座・イベントの開催や生涯学習情報誌「鎌倉萌」の発行、生涯学習教養セミナー等の生涯学習事業を実施した。(教育-11)</p> <p>【実施できなかった事業とその理由等】</p>

(4) 平成27年度の実績の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>
 写生大会には277名、ウインターコンサートには242名、かまくらこどもコンサートには476名、合計995名の参加者があった。
 放課後子ども教室は、稲村ヶ崎小学校に加え、今泉小学校でも本格実施をした。稲村ヶ崎小学校は、3月16日に全ての教室を終了し、夏休みのみの登録者も含め、108名の登録者があり、年間50日開催し、延べ1,252人の参加した。今泉小学校は、105名の登録があり、年間39回の実施で、延べ680人の参加した。
 鎌倉市生涯学習推進委員会に委託して実施している各種講座では、27年度約9,600名の参加者があり、毎年同程度の参加者を維持している。また、その他の生涯学習推進事業を実施し、適切な学習機会の提供に努めている。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

<p>写生大会においては、大船地区で開催してみたり、コンサートにおいては、企画を工夫をしたりして、より良い活動になるよう努めていく。 現在行われている2校の内容の充実を図るとともに、未実施校の施設や教育課程等の状況を総合的に判断しながら、事業の拡充を図っていく。 鎌倉市生涯学習推進委員会と協働し、各種講座の企画実施を行うとともに、大学等と連携し、学習機会の維持・充実に努めていく。</p>

4 平成28年度の目標

<p>写生大会を大船地区にある龍宝寺において、開催する。 今小おもしろクラブにおいて、実施教室をコース化し、利用者にわかりやすい運営に努める。 鎌倉市生涯学習推進委員会による事業の実施及び鎌倉女子大学との協働による公開講座を実施し、学習機会の充実に努める。</p>
--

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	教育-09	事業名	社会教育運営事業					単位	人	指標の傾向	備考
指標の内容	3回の主催事業					単位	人	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
子どものより多くの学びの機会	目標値	750	750	750							
	実績値	755	995								
	達成率	100.7%	132.7%								
整理番号	教育-10	事業名	放課後子ども教室運営事業					単位	人	指標の傾向	備考
指標の内容	稲村ヶ崎小、今泉小での教室参加児童数					単位	人	指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
プログラムの充実	目標値	1,200	1,800	1,900							
	実績値	1,763	1,932								
	達成率	146.9%	107.3%								
整理番号	教育-10	事業名	放課後子ども教室運営事業					単位	箇所	指標の傾向	備考
指標の内容	放課後子ども教室と子どもの家の一体型に向けた整備					単位	箇所	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
国の放課後子どもプランを推進するため	目標値	0	0	0	0	0	1				
	実績値	0	0								
	達成率										

整理番号	教育-11	事業名	生涯学習センター推進事業					単位	千人	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	学習センター利用者数											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
生涯学習の振興状況を図るため	目標値	580	585	590	595	600	600					
	実績値	627	560									
	達成率	108.1%	95.7%									

参考 前年度外部評価結果への対応

<p>鎌倉市民評価委員会からの指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> 「施策の方針」には「学習成果の活用」も含まれているが、このテーマについての取り組みが見受けられない。 「目標とすべきまちの姿」には「その成果が適正に評価され」と適切に学習成果が評価される社会の形成も含まれているようだが、それらに対する取り組みが見受けられない。 各事業において、指標が「設定されていない」「設定されているが、効果を測るには不相当」等が見受けられるため、各事業の「意図」や「効果」が明確に計れる指標を設定して頂きたい。 社会教育運営事業においては、実施に当たった課題として、「既存の事業の継続実施の優先」とあるが、常に施策の方針を念頭に、最適な効果を生み出せる事業を展開していく必要がある。そのため、常に新たなプランと実施した事業に関する評価を行い、最新の問題点と目標を把握する事が重要である。また、事業の「意図」として、高齢者の社会参加の促進が謳われているが、指標も子どもに関するものであり、実施についても高齢者に関連したものが見受けられない。 各行政区ごとに学習センターが設置されているが、生涯学習団体が多く、場所の確保に苦労している。場の提供に検討を要する。 放課後子ども教室運営は、市民等との協働で、全ての小学校区で行われることを望む。なお、放課後子ども教室運営がこの分野であるのが、適当かどうかについては、一考を要す。 	⇒	<p>指摘への対応、コメント等</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習教養セミナーについては、指導者登録制度による登録を行っている団体による事業であり、学習成果の活用事例の一つである。 学習成果発表の場であるフェスティバルを各学習センターで実施している。 各事業の指標の設定に努めた。 平成28年度、新規事業として、鎌倉まつりの市内在学の小学校5年生から中学校3年生までの希望者(94名)を対象に、流鏝馬の観覧会を実施した。今小おもしろクラブでは、地域の方々(高齢者も多く参加)が指導者として、教室の指導にあっている。 公共施設再編事業との整合性を図りながら、場の確保について検討していく。 全ての小学校区において実施することが望ましいが、まずは、専有スペースや人員の確保が必要である。分野については、今後、検討していく。
---	---	--

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・放課後児童教室の拡充が認められる。
- ・多様な学習プログラムが市民に提供された。
- ・小・中学生を対象とした、芸術(写生大会やコンサートなど)活動の提供が行われた。
- ・市民意識調査において、取組を知らない人が減った。小・中学生を対象とした企画、運営、鎌倉萌を通してのイベント発信等、目に見える形のものだったのがその要因だと考えられる。
- ・鎌倉市生涯学習推進委員会と協働し、各種講座の企画実施を行うとともに、大学等と連携している。
- ・稲村ヶ崎小学校に加えて、今泉小学校での放課後子ども教室をスタートさせて、これを充実させ、子どもたちの居場所づくりの充実を図っている。
- ・放課後子ども教室と子どもの家の一体型に向けた整備を検討するなど、他の事業との連携による効果的な事業を検討している。異なるセクション間の連携を模索している。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	4	↘	0	→		4
効果	○	2	△	1	—	5	—

《課題》

- ・「目標とすべきまちの姿」を実現するには、市民全年代での学習実態(個人趣味による学習等)を優先して調査することが求められる。実態が不明では取るべき手立てが分からない。
- ・「放課後子ども教室」の位置付けや将来の方向性を再検討することが求められる。
- ・生涯学習センターの事業内容は委託先市民団体に丸投げになっていないか確認することが求められる。
- ・実施に関して、目標には幅広い年代とあるにも関わらず、一部の年代しか対象となっていない。「幅広い年代の方々」と謳っているからには真ん中の世代が抜け落ちない企画運営をしない限り目標達成は困難である。
- ・市民評価委員からの指摘にある「学習成果」の活用とは、学習した人たちが、その知識を活かすことである。また、それらを評価するということは、ただ発表し順位をつけることではないため、適切な事業の執行が求められる。
- ・様々な事業を実施していることは分かるが、どの様な工夫や改善を行っているのかが読み取れない。
- ・評価の理由として参加人数を挙げているが、この人数が鎌倉市全体の小学生の数に対してどのくらいの割合なのか？また他の市区町村の同様の取組に対する参加割合と比較してどうなのかが明らかになっていない。

《提言》

- ・中学、高校、大学等に対する施策にもっと取組を注力すべきである。
- ・多様なコミュニティの形成にどのように寄与しているのか把握する方法を構築すべきである。
- ・それぞれの団体がそれぞれ企画し講座を開催している。連携し年間スケジュールが市民に広報されるとよい。
- ・「居場所づくり」のハード面はこの分野だが、ソフト面は別分野が担当しているのを一本化すべきである。
- ・人員として市の職員だけでは足りない。仕組みを市が作り市民の協力を仰いでいくべきである。
- ・他の小学校にも、放課後子ども教室が加わっていくことが望ましいが、人的資源や予算などの確保に時間、予算がかかることを踏まえた上で施策を展開してほしい。